

足尾銅山を世界遺産へ

世界遺産国内暫定一覧表への追加記載を目指して



本山製錬所跡

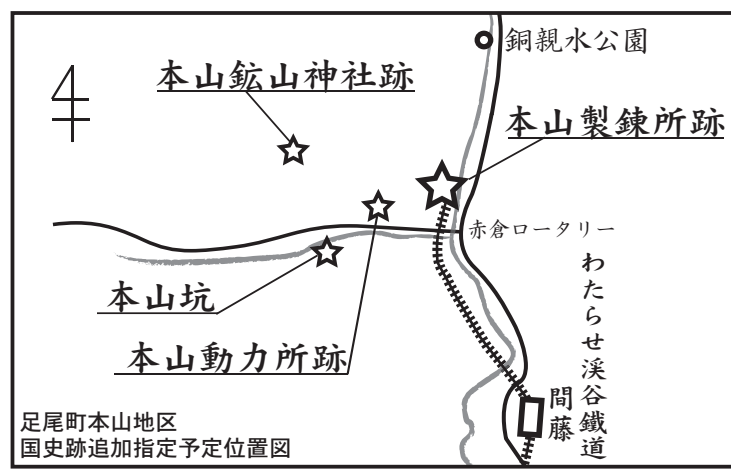
3月号では、平成24年10月に開催したシンポジウムの概要などについてお知らせしました。今回は、足尾銅山産業遺産の国史跡の追加指定などについてお知らせします。

くわしくは 文化財課 世界遺産登録推進室 ☎(30)1861

国史跡足尾銅山跡

世界遺産登録を目指すためには、国指定史跡の数を増やすことが必要となります。国史跡は、遺跡のうち歴史上、学術的価値の高いものについて、国が文化財保護法に基づき指定するもので、現在、市内では「日光杉並木街道」が国特別史跡に、「日光山内」と「足尾銅山跡通洞坑、宇都野火薬庫跡」が国史跡に指定されています。

足尾銅山跡には多くの産業遺産が遺存していますが、通洞坑は足尾銅山の主要坑口の一つで、宇都野火薬庫跡は鉱石採掘に用いた火薬類を保管した施設です。平成20年3月にこの2カ所が国史跡に指定されました。今回、市は、足尾銅山の中心地であった本山地区の産業遺産4カ所を国史跡に追加指定するよう、国に意見書を提出しました。国が文化審議会に諮問し、指定することが適当と



の答申がされれば、平成26年3月までに指定されることとなります。

◆本山坑
明治16(1883)年に江戸時代か

らあつた坑道を再開発したもので、昭和48(1973)年の閉山まで、この坑道を基準に採鉱が行われました。坑口前には貯鉱施設などが遺存しています。安全管理上、本山坑口は非公開ですが、道路上から貯鉱施設を見ることが出来ます。

◆本山動力所跡

動力所では、採鉱で使用する大きく岩機の動力源である圧縮空気をコンプレッサーで作って坑内に送っていました。大正初期に建築された洋風木造平屋建てで、外観は道路上から

見学することが出来ます。

◆本山製錬所跡

明治18(1885)年に、現在の場所に製錬所が設置されました。製錬とは、鉱石を選鉱した後、高温で溶解して化学的に金属を取り出す作業のことです。本山製錬所では、産銅量の増加に対応するために当時の最新技術を導入して生産を伸ばしましたが、それに伴い煙害が発生しました。煙害防止のためにさまざまな技術を導入しましたが、根絶には長い年月を必要としました。昭和31(1956)年に、自熔製錬法などを応用した脱硫技術(煙害の原因物質の亜硫酸ガスを取り除く)を世界で初めて実用化し、煙害防止が達成されました。この技術は、世界各国の製錬所にも導入されました。

本山製錬所は、足尾銅山の閉山後も銅鉱石を海外から運んで製錬を続けましたが、昭和63(1988)年に事実上の操業を停止しました。跡地には、大煙突や自熔炉のフレーム、計器室、硫酸貯蔵タンクなどが遺存しています。施設内への立ち入りはできませんが、川の対岸から全景を見ることが出来ます。

◆本山鉦山神社跡

足尾地域に現存する最古の山神社



本山動力所跡



本山鉦山神社跡

で、明治22(1889)年に、足尾銅山の坑長(古河鉦業所長)をはじめ、本山中で働く従業員一同の寄進により造営されました。この神社を中心に銅山の繁栄を願って山神祭が行なわれ、閉山に伴い、御神体は通洞鉦山神社に移されました。

現在は、本殿や拝殿、鳥居などが遺存し、見学は自由にできますが、参道の一部が崩れているため注意が必要ですよ。

産業遺産見学会

今年度1回目の見学会を、古河機械金属株式会社と市の共催で、6月

18日(火)に開催しました。30名の参加者は、古河掛水倶楽部・重役住宅と通洞選鉱所を見学し、古河機械金属株式会社足尾事業所の説明を熱心に聞いていました。

見学会・シンポジウム

10月18日(金)に今年度2回目の足尾銅山の産業遺産見学会を、26日(土)にシンポジウムを行う予定です。詳細については、新聞折込みによるチラシまたは専用ホームページ「足尾銅山の世界遺産登録を目指して」(<http://www.nikko-ashio.jp/>)をご覧ください。